

平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年8月2日  
上場取引所 東

上場会社名 シダックス株式会社  
コード番号 4837 URL <http://www.shidax.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 志太 勤一  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 兼 経理財務本部長 兼 IR担当 (氏名) 若狭 正幸 TEL 03-5784-8909  
四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	46,480	1.9	81	△85.9	△144	—	△219	—
25年3月期第1四半期	45,626	△0.0	577	39.0	359	—	△76	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 △10百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 34百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	△5.46	—
25年3月期第1四半期	△2.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	107,273	24,723	23.0	614.58
25年3月期	94,284	25,335	26.7	629.21

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 24,632百万円 25年3月期 25,218百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	95,000	3.1	2,750	36.8	2,400	27.7	1,300	77.5	35.52
通期	192,000	3.1	6,000	16.8	5,300	0.9	2,000	△24.8	54.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期1Q	40,918,762株	25年3月期	40,918,762株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	838,490株	25年3月期	838,388株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期1Q	40,080,345株	25年3月期1Q	37,399,168株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての御注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、第2四半期決算及び期末決算において、機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催しております。この説明会で配布しました資料を当社ホームページ（<http://www.shidax.co.jp/ir/>）に掲載しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、安倍政権の経済政策アベノミクスによる好況感が伝えられる一方で、株価や為替の変動が激しく、不安定な状況でありました。实体经济への波及は限定的であり、個人消費におきましても、雇用・所得環境の大幅な改善はみられず、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。このような環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。また、「はぐくむ、大切なことのすべて」という基本理念のもと、運動と心に関わるサービスの提供をより強化するために、「シダックス・カルチャービレッジ」(東京都渋谷区神南)を新しい価値の創造と情報発信の拠点として位置づけ、カルチャースクールとスポーツクラブを融合させたスポーツ&カルチャー事業における新しいサービス「CULTURE WORKS」としてスタートさせました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は46,480百万円(前年同四半期比1.9%増)となりました。利益面につきましては、新規事業スポーツ&カルチャー事業の展開の投資などが先行したため、営業利益は81百万円(前年同四半期比85.9%減)となり、経常損失は144百万円(前年同四半期は359百万円の経常利益)、四半期純損失は219百万円(前年同四半期は76百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、調達コスト・物流コストの削減、在庫の削減などに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルゲン関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は10,941百万円(前年同四半期比0.0%減)、セグメント利益は961百万円(前年同四半期比1.7%減)となりました。

#### ② コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、一部の業種においては、円安・株高の影響を受け、生産・輸出・雇用等が持ち直し動きがありました。経営環境は依然として厳しい状況にあります。このような環境のもと、平成24年11月から和食の道場六三郎氏、イタリア料理の落合務氏、四川料理の陳建一氏と「シダックス料理人企画」をスタート、各料理人による監修メニューの提供や調理実演イベントを行うなど、食を通じて“高級化”と“エンターテインメント”の要素を取り入れた新たな試みを行っております。また、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上を目指すとともに多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスなどを含んだ総合的なソリューション提案を行い、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市の仮設住宅への食事提供など、震災支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,854百万円(前年同四半期比2.3%減)、セグメント利益は443百万円(前年同四半期比2.0%増)となりました。

#### ③ メディカルフードサービス事業

病院・福祉施設などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、「出張回転寿司」などのイベントの展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,996百万円(前年同四半期比1.5%増)、セグメント利益は248百万円(前年同四半期比15.8%減)となりました。

## ④レストランカラオケ事業

国内における状況は、個人消費において、雇用・所得環境の大幅な改善はみられず、節約志向・支出の多様化、競合他社はもとより業種を超えた競争が激化し、事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。このような環境のもと、春・夏メニュー、「ゆったりランチ」の強化・推進、カラオケ業界初の試みとして、日本を代表する3大料理人(和食の道場六三郎氏、イタリア料理の落合務氏、四川料理の陳建一氏)監修による本格的な「三大巨匠・ディナーコース」の提供を開始いたしました。水曜日女性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「レディースデー」、木曜日男性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「メンズデー」、女性会員様だけの特別企画「女子会PACK」の推進、マスメディア連動企画の取り組みなど様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、ケータイ会員を拡大(690万人突破)し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は10,018百万円(前年同四半期比7.0%減)、セグメント損失は29百万円(前年同四半期は77百万円のセグメント利益)となりました。

## ⑤スペシャリティーレストラン事業

米国における状況は、財政緊縮の影響が懸念されるものの、緩やかな回復傾向で推移すると見込まれます。このような環境のもと、ケータリング受注の強化、季節メニューイベントなどの販売促進活動の実施により売上増加に努めるとともに、不採算店の撤退などにより、収益性の向上に努めてまいりました。国内における状況は、個人消費において、雇用・所得環境の大幅な改善はみられず、節約志向・支出の多様化、競合他社はもとより業種を超えた競争が激化し、事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。このような環境のもと、イベント企画の強化、会員限定プランの実施により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,110百万円(前年同四半期比28.5%増)、セグメント損失は261百万円(前年同四半期は205百万円のセグメント損失)となりました。

## ⑥コンビニエンス中食事業

同業他社・大手コンビニエンスストアとの出店競争が依然厳しい環境ではありますが、当四半期で新規店舗を6店舗出店し、お客様の生活ニーズに応じた利便性向上・満足度向上の実現に取り組んでまいりました。商品・サービス面においては、衣料品販売やバーゲン本販売などの催事による取扱いカテゴリー拡大や、弁当・デザートなど日配品を中心とした品揃え強化を進めるとともに、ゴールデンウィーク菓子プレゼント企画・沖縄フェア・七夕など季節感を演出する企画での販売促進を行ってまいりました。また、運営面では、取引先集約による値入改善を進めるとともに、労務費及び消耗品などの経費の効率的運用を行い、既存店のブラッシュアップと赤字店舗の改善に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,691百万円(前年同四半期比4.7%増)、セグメント利益は104百万円(前年同四半期比10.0%増)となりました。

## ⑦トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、地方自治体における財政再建と地域活性化へのニーズが高まっており、着実に民間委託が進んでおります。一方、民間サービス分野では、経済全体に明るい兆しが見られるものの、コスト削減に対するクライアント要求が続く中、同業他社との競争は激化しており、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行サービスの提案を行い、千葉県南房総市、佐賀県多久市等からスクールバス業務を受託するなど、幅広い業務の新規受注に努めてまいりました。社会サービス業務においては、従来から事業の柱であります学校給食業務及び図書館業務に加え、北海道沼田町、山梨県上野原市等から指定管理者として施設管理・運営を受託するなど、グループ総合力を活かした営業活動により、事業拡大と適正運営による収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,643百万円(前年同四半期比2.0%増)、セグメント利益は437百万円(前年同四半期比7.9%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ12,989百万円増加し107,273百万円(前連結会計年度末比13.8%増)となりました。流動資産においては、6,386百万円増加し38,107百万円となりました。これは主に、現金及び預金が6,189百万円増加したことによります。固定資産においては、6,602百万円増加し69,165百万円となりました。これは主に、投資その他の資産が1,216百万円減少した一方、渋谷本社ビルの取得等により有形固定資産が8,045百万円増加したことによります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ13,600百万円増加し82,549百万円(前連結会計年度末比19.7%増)となりました。流動負債においては、3,252百万円増加し45,358百万円となりました。これは主に、未払法人税等が1,216百万円、賞与引当金が988百万円減少した一方、1年内返済予定の長期借入金が2,252百万円、その他に含まれている未払金が2,261百万円及びその他に含まれている預り金が830百万円増加したことによります。固定負債においては、10,348百万円増加し37,191百万円となりました。これは主に、社債が380百万円減少した一方、長期借入金が11,030百万円増加したことによります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ611百万円減少し24,723百万円(前連結会計年度末比2.4%減)となりました。これは主に、為替相場の変動により為替換算調整勘定が272百万円増加した一方、四半期純損失219百万円の計上及び剰余金の配当601百万円により利益剰余金が820百万円減少したことによります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.7ポイント低下し23.0%となりました。

## (キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ6,189百万円増加し17,979百万円(前連結会計年度末比52.5%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、1,577百万円の資金増加(前年同四半期は2,804百万円の資金増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が20百万円計上されたほか、賞与引当金の減少額が1,020百万円及び法人税等の支払額が1,677百万円発生した一方、減価償却費が1,669百万円、未払金の増加額が2,050百万円並びに未払消費税等の増加額が482百万円あったことによります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、6,738百万円の資金減少(前年同四半期は246百万円の資金減少)となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入が1,294百万円、有形固定資産の売却による収入が945百万円あった一方、有形固定資産の取得による支出が9,092百万円あったことによります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、11,269百万円の資金増加(前年同四半期は4,034百万円の資金増加)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が2,688百万円、リース債務の返済による支出が626百万円、社債の償還による支出が380百万円及び配当金の支払額が548百万円あった一方、長期借入れによる収入が15,800百万円あったことによります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月20日に公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想について変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,021	18,211
受取手形及び売掛金	12,751	13,242
商品及び製品	1,146	1,142
原材料及び貯蔵品	1,184	1,257
その他	4,630	4,268
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	31,721	38,107
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,784	19,325
その他(純額)	9,484	16,988
有形固定資産合計	28,268	36,314
無形固定資産		
のれん	9,736	9,601
その他	1,509	1,418
無形固定資産合計	11,246	11,020
投資その他の資産		
敷金及び保証金	9,869	8,581
その他	13,619	13,683
貸倒引当金	△442	△435
投資その他の資産合計	23,047	21,830
固定資産合計	62,562	69,165
資産合計	94,284	107,273

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,449	8,430
短期借入金	346	141
1年内返済予定の長期借入金	12,847	15,100
1年内償還予定の社債	760	760
未払法人税等	1,698	481
ポイント引当金	310	306
役員賞与引当金	50	28
賞与引当金	2,191	1,203
株主優待引当金	246	175
その他	15,205	18,731
流動負債合計	42,105	45,358
固定負債		
社債	2,260	1,880
長期借入金	15,147	26,178
役員退職慰労引当金	575	583
資産除去債務	3,091	3,101
その他	5,768	5,448
固定負債合計	26,843	37,191
負債合計	68,948	82,549
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	4,128	4,128
利益剰余金	10,936	10,115
自己株式	△275	△275
株主資本合計	25,571	24,750
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	852	814
為替換算調整勘定	△1,205	△933
その他の包括利益累計額合計	△352	△118
少数株主持分	116	91
純資産合計	25,335	24,723
負債純資産合計	94,284	107,273



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	45,626	46,480
売上原価	40,029	41,306
売上総利益	5,596	5,174
販売費及び一般管理費	5,019	5,092
営業利益	577	81
営業外収益		
受取利息	4	7
受取配当金	5	2
負ののれん償却額	37	37
その他	43	38
営業外収益合計	90	85
営業外費用		
支払利息	229	266
その他	79	44
営業外費用合計	308	311
経常利益又は経常損失(△)	359	△144
特別利益		
固定資産売却益	2	—
投資有価証券売却益	—	160
その他	—	4
特別利益合計	2	165
特別損失		
レストラン等店舗閉鎖損	0	—
その他	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益	361	20
法人税、住民税及び事業税	690	509
法人税等調整額	△256	△238
法人税等合計	434	271
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△72	△250
少数株主利益又は少数株主損失(△)	3	△31
四半期純損失(△)	△76	△219

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△72	△250
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17	△38
為替換算調整勘定	124	278
その他の包括利益合計	107	240
四半期包括利益	34	△10
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	30	14
少数株主に係る四半期包括利益	3	△25

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	361	20
減価償却費	1,754	1,669
のれん償却額及び負ののれん償却額	198	218
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,133	△1,020
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△21	△6
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△5	△3
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△44	△71
受取利息及び受取配当金	△9	△9
支払利息	229	266
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△160
固定資産売却損益(△は益)	△2	—
売上債権の増減額(△は増加)	△11	△445
たな卸資産の増減額(△は増加)	49	△35
未収入金の増減額(△は増加)	145	250
仕入債務の増減額(△は減少)	△96	△78
未払消費税等の増減額(△は減少)	139	482
未払金の増減額(△は減少)	1,856	2,050
未払費用の増減額(△は減少)	240	231
預り金の増減額(△は減少)	219	341
その他	△32	△237
小計	3,838	3,460
利息及び配当金の受取額	9	9
利息の支払額	△183	△232
保険金の受取額	—	17
法人税等の支払額	△860	△1,677
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,804	1,577

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金及び拘束性預金の預入による支出	△155	△155
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	155	155
有形固定資産の取得による支出	△218	△9,092
有形固定資産の売却による収入	—	945
無形固定資産の取得による支出	△33	△20
投資有価証券の売却による収入	—	163
敷金及び保証金の差入による支出	△222	△16
敷金及び保証金の返還請求権買戻しによる支出	△8	—
敷金及び保証金の回収による収入	243	1,294
その他	△6	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△246	△6,738
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	396	138
短期借入金の返済による支出	—	△369
割賦債務の返済による支出	—	△56
リース債務の返済による支出	△856	△626
長期借入れによる収入	6,314	15,800
長期借入金の返済による支出	△2,827	△2,688
社債の発行による収入	1,759	—
社債の償還による支出	△237	△380
配当金の支払額	△507	△548
自己株式の取得による支出	△0	△0
その他	△5	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,034	11,269
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	81
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,614	6,189
現金及び現金同等物の期首残高	9,023	11,789
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,637	17,979

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフ ードサー ビス事 業	メディカ ルフ ードサ ービス 事業	レストラ ンカラ オケ事 業	スペシャ リティー レスト ラン事 業	コンビ ニエ ンス中 食事業	トータル アウト ソー シング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	305	8,036	8,867	10,771	3,976	3,527	9,458	44,943	682	45,626
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	10,639	209	2	7	17	3	29	10,910	435	11,345
計	10,945	8,245	8,870	10,778	3,994	3,530	9,488	55,853	1,118	56,971
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	978	434	295	77	△205	94	474	2,151	16	2,167

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,151
「その他」の区分利益	16
セグメント間取引消去	△23
全社費用(注)	△1,567
四半期連結損益計算書の営業利益	577

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第1四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

## Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	311	7,854	8,996	10,018	5,110	3,691	9,643	45,626	853	46,480
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	10,630	161	2	78	19	3	40	10,936	421	11,357
計	10,941	8,016	8,999	10,097	5,130	3,694	9,683	56,563	1,274	57,837
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	961	443	248	△29	△261	104	437	1,903	△238	1,664

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,903
「その他」の区分利益	△238
セグメント間取引消去	△0
全社費用(注)	△1,582
四半期連結損益計算書の営業利益	81

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第1四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。